

「持続可能な多世代共創社会のデザイン」
研究開発領域

Designing a Sustainable Society
through Intergenerational Co-creation

領域の概要および
提案募集に向けたメッセージ

領域総括 植田 和弘

京都大学大学院経済学研究科 教授

目次

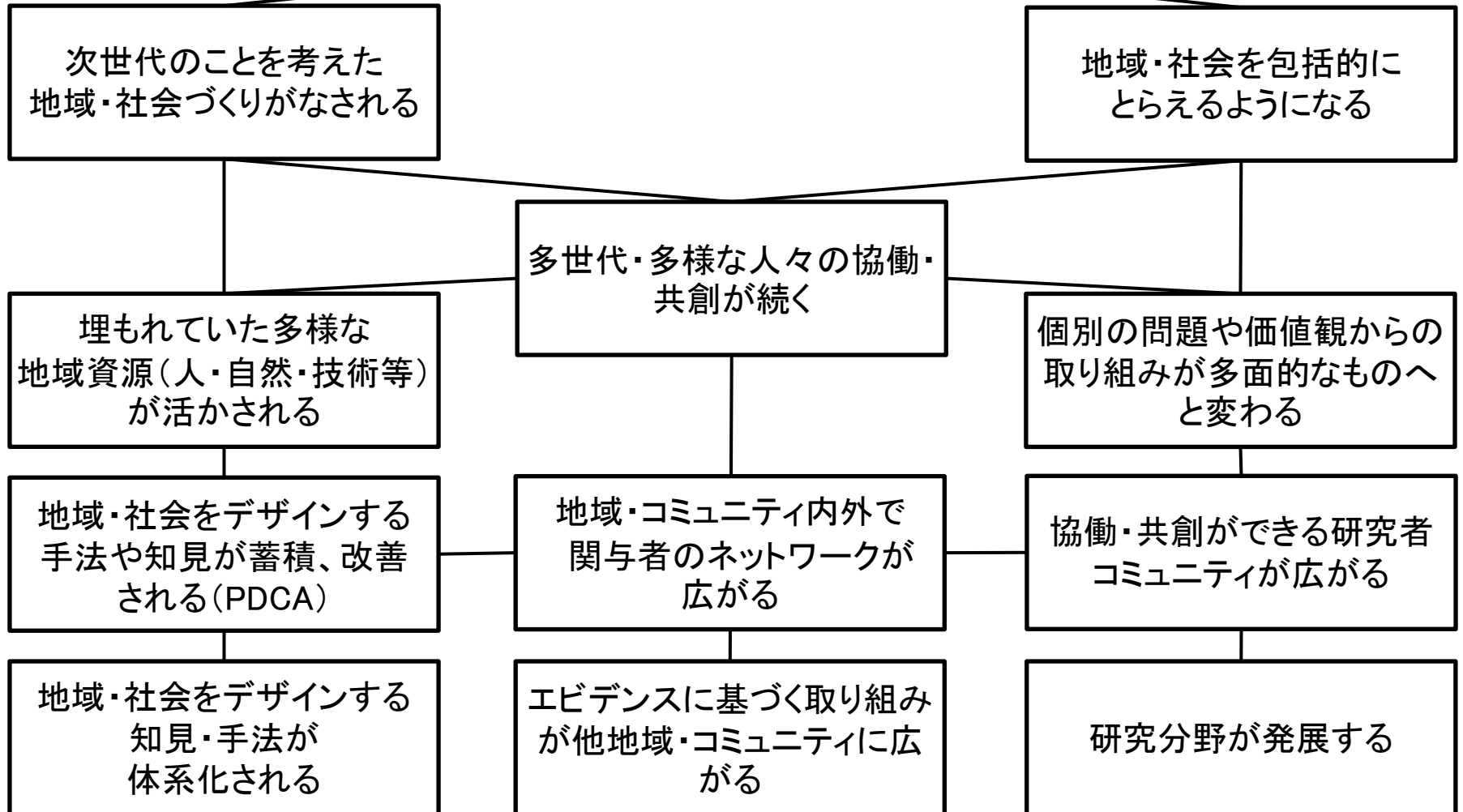
- 問題意識
- 領域の目指すもの
- 領域目標
- 研究提案に求めるもの
- 研究要素イメージ
- 対象とする都市・地域
- 期間・規模など
- メッセージ

問題意識

- 現代日本の都市・地域は、多様かつ重層的で、(既存システムの微修正では)容易に解決できない問題群に直面。
 - 人口減少社会、少子・高齢化
 - 世界経済の不安定性
 - 地球温暖化、気候変動
 - 若者、将来の見通しは不確実で暗い? など
- 持続可能な都市・地域とは
 - 持続可能性とは
 - well-beingとは
- 成熟社会にふさわしい生活の質を重視し、世代を超えて持続可能な都市・地域の再設計、トータル・ソリューションを描くことが必要。
 - なぜ、「多世代共創」なのか?

領域の目指すもの

持続可能な都市・地域づくり



領域の目標・概要

概要

人口減少、少子高齢化、気候変動など、成熟社会が抱える多様で重層的な問題を見据え、多世代・多様な人々の共創・協働と科学的根拠に基づき、環境、社会、経済などに多面的・包括的アプローチを行い、持続可能な都市・地域をデザインする。

目標

- ① 地域資源と技術を活用して多世代・多様な人々が活躍できる**持続可能な都市・地域のデザイン提示**
- ② 科学的根拠に基づいた**多面的な価値創出のための仕組みづくり**
- ③ 研究開発成果の社会実装・展開に向けた**成果の一般化・体系化およびネットワークの構築**

* 領域目標の達成に向けて、研究開発プロジェクトの推進および各種の取り組みを、領域総括の下で実施。

期間

平成26年度～平成31年度(予定)

研究提案に求めるもの

◎社会実装に資する成果を期待！

- 都市・地域での**実践的な研究開発**
- 自然科学と人文・社会科学の**双方の知見**を活用
- 社会の**ビジョン**および移行**プロセス**を的確に提示
- **多世代共創**による社会のデザイン
- 都市・地域が抱える問題を**多面的・包括的**にアプローチ
- 問題解決に取り組む人と研究者の適切な**協働体制**

など

* 詳しくは、募集要項の以下を参照のこと。
p.5-6 「募集・選考にあたって本領域が求めるもの」
p.14 「選考にあたっての基準」

研究要素イメージ

◎複数要素をつなぐものや、
以下のイメージにはない新しいアイデアも期待！

- 人が孤立化せず出かけたくなる空間の拡大
- 多世代・多様な人々の能力を生かした就労・社会参画の促進
- 人・地域・環境の相互作用を生み出すライフスタイル・行動変容の促進
- 有効活用されていない地域資源の発掘と活用
- 環境と調和した地域の資源・経済の循環
- 公的サービスの質を落とさず低コスト化、効率化、リデザイン

* 詳しくは、募集要項の以下を参照のこと。
p.10-11「研究開発プロジェクトの要素イメージ」

対象とする都市・地域

◎具体的な都市・地域での社会実験・実証を期待！

特有の問題
を抱える
東京などの
大都市

問題が大きく現れる 都市・地域

- ・大都市の郊外
- ・地方中小都市
- ・被災地

都市との関
係性を検討
すべき中山
間地・離島

都市・農
村連携

地域間
連携

海外との
連携

期間・規模など

◎研究開発プロジェクトの提案を募集！

【締切り】平成26年9月1日(月)正午(厳守)

実施期間

原則3年(平成26年11月～平成29年10月予定)

* 3年度目の評価によっては、最大2年間延長する場合あり
(実装の可能性の高い課題等)。

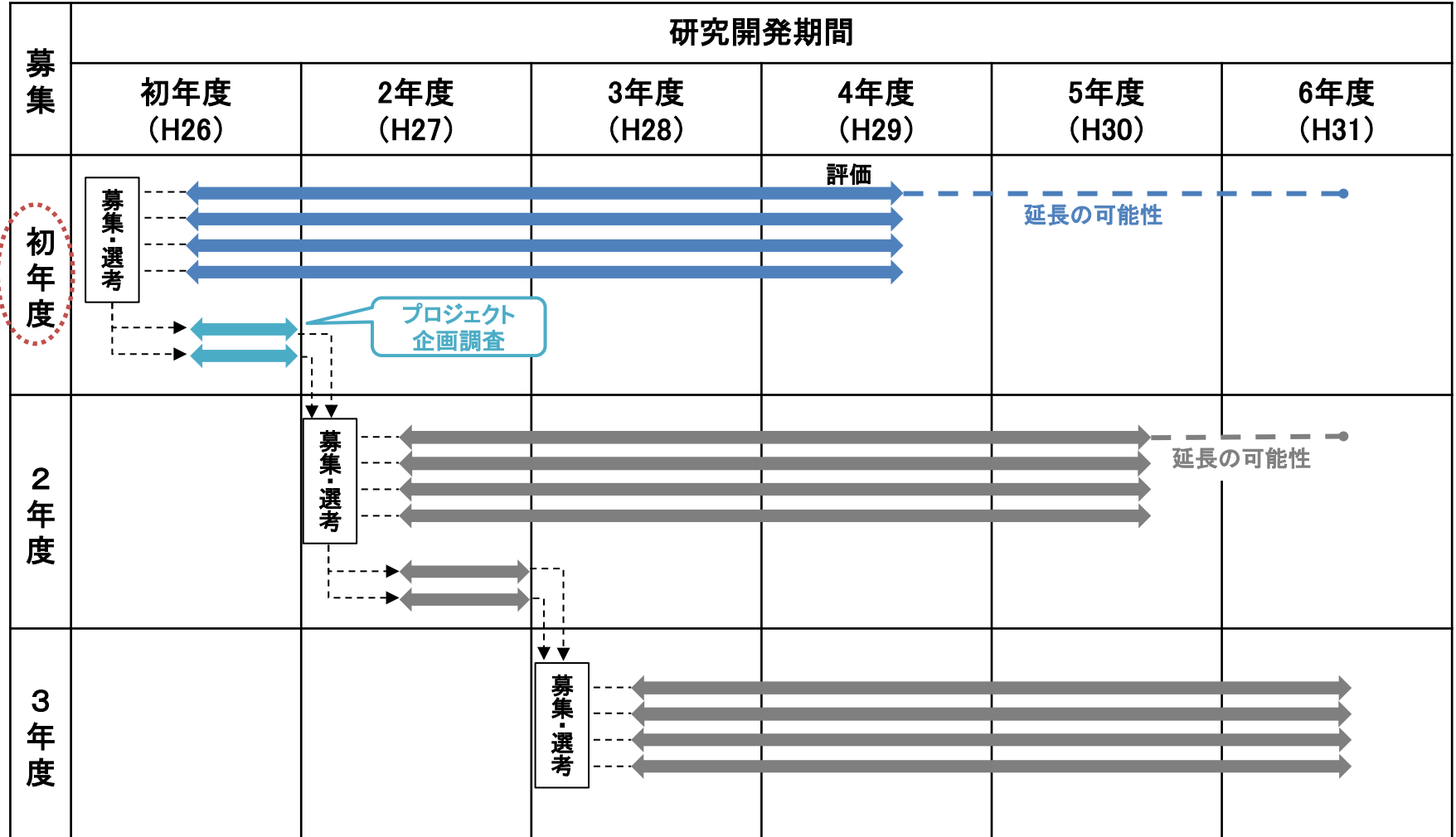
研究開発費

数百万円～3000万円未満／年

* 内容や採択方針に応じて柔軟に判断。

- * 研究開発プロジェクトとしての提案のうち、構想として優れてはいるものの実施するにはさらなる具体化が必要なものについて、半年間(今年度は約4か月間)の企画調査として採択する可能性あり。
- * 企画調査終了後は、次年度以降にプロジェクト提案することを期待。
- * 領域として、平成28年度まで3回提案募集を予定。

研究開発プログラムの実施パターン (イメージ)



メッセージ

- 研究代表者のリーダーシップとプロジェクト・マネジメントが鍵。
 - 研究開発と社会実装を推進
 - 多様なステークホルダーとの協働
- 採択後は、領域との対話が必須。
- 単なる取り組みや、研究のための研究はNo!
- 持続可能な都市・地域の実現に向けて、Good Practiceを創出し、共に世界へ発信しよう！